

## 2022年度 活動報告

2022年4月1日から2023年3月31日までの1年間は、新型コロナウイルス感染症対策を優先させる生活も3年目となりましたが、医療のひっ迫や感染者数の増減に翻弄される状況は年末まで続きました。しかし、それ以前の2月24日、ウクライナへのロシアによる侵攻が突然始まり、世界経済は大きな影響を受け、エネルギーや原材料価格の上昇は日本へも物価高をもたらし暮らしを圧迫する状況も押し寄せて来ました。外出支援サービスに従事する私たちハミングにとりましてもガソリン価格の上昇は大きな問題ですが、行政は事業者を対象とした支援策は実施しましたが、NPO法人は含まないという判断で、私たちは大いに困惑させられました。しかし、移動することを人権と捉え、高齢者や障がい者の「移動の自由」を拡大するために調査研究や提案活動を行う「特定非営利活動法人かながわ福祉移動ネットワークサービス」の粘り強い働きかけにより、ついに神奈川県から私たち福祉有償運送に従事する県内各地のNPO法人にも「燃料価格高騰支援金」が給付されることが決定しました。

一方、2021年6月、千葉県八街市において飲酒運転のトラック交通事故が発生し、5人の児童が死傷する痛ましい事件に対し警視庁は通学路での交通安全を確保するとともに、飲酒運転根絶に向けた取り組みを強化する対策を推進する事を全国の警察署に通達しました。これを受け、道路交通法施行規則の改正が行なわれ、とくに運送事業用自動車の運転者の運転前後の酒気帯びの有無の確認が義務付けられました。私たち外出支援サービスハミングもこれに従うことが求められ、各自が携帯型のアルコール検知器を所有し毎日ワーク前に測定結果を事業者内の安全運転管理者に報告することを行うようになりました。

また、2001年にハミングを開始して以来利用者の送迎を担わせていただいていたNPO法人一期一会が運営する「デイ愛甲原」が8月末をもって事業を廃止することとなりました。「デイ愛甲原」の送迎受託はハミング事業実績のおよそ2分の1を占めてきたもので、事業廃止はハミングの事業にも大きな打撃となり、事業継続が懸念されました。しかし、事業の残る半数は個人利用者からの依頼であり、透析治療や定期受診等高齢者や障がい者の生活を支える上でなくてはならない外出支援であるので、余裕のない収支バランスではありますが何とか継続しているところです。

以上、思いもよらない様々な状況が多々あり、それぞれに対応してきた1年ではありましたが、私たちハミングは「年を取っても、障がいを持っても自由に外出できる移動しやすい地域社会をつくるため」という想いで、今現在も努力を続けています。

- 1 事業の安定と拡大を目指して、組合員を2名増やします。  
運転会員を新たに増やすことはできませんでした。
- 2 利用会員を7名増やします。  
目標を超える8名の入会がありました。
- 3 外出支援件数1320件を目指します。(月平均110件)  
1271件で、月平均は106件でした。2021年度1126件、月平均94件を超えました。
- 4 付き添い介助時間600時間を目指します。(月平均50時間)  
外出支援に係る時間は639.75時間ですが、付き添い介助時間は時間内164.25時間、時間外108.5時間で合計272.75時間でした。
- 5 お出かけ企画 趣味やお楽しみでの外出が増加するように努力します。  
個別に近隣の大型公園やレストラン、カフェ等へのお出かけに対応しました。
- 6 事業の拡大と継続に向けて世代交代をしながら、組合員の意見が活発に出されるような場所と時間づくりを工夫します。  
定期的に理事会を開催し、今後の向けた意見交換や討議を行いました。県央で毎年開催されている「地域で働く説明会」には参加できませんでした。
- 7 地域に向けた福祉サービスの情報提供や助け合いのシステムづくりをさらに進め、充実を図ります。  
☆広報・宣伝活動、組合員の募集・・・ホームページを充実させ、活用します。  
ハミングニュースを3回発行し、地域包括支援センターやケアマネ事業所に対して、パンフレットの配布も行いましたが、ホームページの活用は十分に行えませんでした。  
☆参加型福祉活動に関する学習会や講演会を実施します。  
学習会、講演会の実施はありませんでした。
- 8 特定非営利活動法人一期一会の受託事業である「デイ愛甲原」と「風の丘」の通所送迎の安全運航に努めます。  
「デイ愛甲原」の4月から8月までの送迎件数は357件、489.25時間でしたが、8月末で事業終了となりました。
- 9 メンバーの力量アップと安心・安全の外出支援サービスを提供するために研修会や学習会に出席します。

特に出席しませんでした。ワーカー不足により、ワーク以外に時間をつくることが難しい状況でした。

- 10 移動困難者がより自由に移動できる社会を目指して、各方面への働きかけを行うとともに、支援や理解をして下さる方が増えるように努めます。

誠実に対応おり、ワークについて評価する声がありました。

- 11 たすけあい「W. Co 基金」へ寄付します。

厳しい収支バランスにより、寄付は行いませんでした。

- 12 私たちのはたらきを援助する意志ある団体を探し、助成金や補助金を受けることができるように努めます。

神奈川県福祉有償事業者燃料価格高騰支援事業費給付の決定の通知がありました。また、共同募金会からの助成がありました。